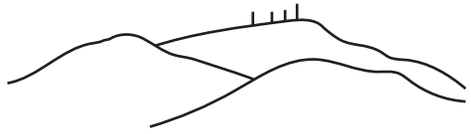
Devotion Guide/ユースマナ

Youth Manna

2018/8/27-9/2



マルコ 1:35
　さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2018/8/27(月)

マルコ 15:33-47

　イエス様が十字架で息を引き取られた時、神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂けました。神殿には至聖所という場所があり、神様が臨在される最も聖なる場所だったので、そこには大祭司のみが年に一度だけしか入ることが許されていませんでした。その至聖所の幕が裂けたことが意味していることは何だろうか？「私たちはイエスの血によって大胆に聖所に入ることができます。」（ヘブル 10:19）
　これは信じる者に対する神様の心です。神様はあなたに、もっと近くに来て欲しいと願っています！私たちは罪ある者ですが、神様の一方的な愛が十字架によって示されました。心を静めて神様の愛に応えて祈ろう！

2018/8/28(火)

マルコ 16 章

　イエス様は十字架で死に、三日後によみがえられました！もし私たちが「十字架の死」だけを信じているのなら、私たちの信仰は空しいものです。弟子たちは最初イエス様の復活のことを聞いても信じませんでした（10〜14）。信じようとしないのは、私たちの性質でもあります。イエス様が死に打ち勝ち、よみがえられ、今も生きておられること、そしてやがて来られる方であることを信じよう！
　15〜18 節を読もう。イエス様の命令はまだ成し遂げられていません。あなたの周りの福音が宣べ伝えられていない人のために祈ろう。
　あなたはイエス様の言葉にどのように応えて生きますか？今日神様のために何ができるか考えよう！そして勇気を持って実行しよう！

2018/8/29(水)

詩篇 34 篇

　ダビデは、その生涯のなかに数々の大きな苦しみや悩みがあった。覚えのないことで殺されそうになったダビデは、どんなに悲しくて恐ろしくて苦しかったことだろう。それらは、人の力ではどうすることもできない主の助けが必要なことだった。ダビデは主を求め、仰ぎ、主を呼んだ。神様はダビデの祈りに応えてくださり、すべての苦しみから救い、すべての良いものでダビデを満たしてくださった。
10 節『しかし 主を求める者は良いものに何一つ欠けることがない。』
　私たちは、いつも神様に信頼して歩みたいと願っているけれど、苦しい時悲しい時恐ろしい時には、どうしていいのかわからなくなる。イエス様、あなたが私と一緒にいてくださるとわからなくなっても、一緒にいてくださることを感謝します！

2018/8/30(木)

詩篇 35 篇

　この詩篇 35 篇の背景には、サウル王の迫害があると考えられている。そのような迫害の中でダビデが信仰者として立つことの決意が宣べられている。
　あなたの困難は、既に主が知っておられる。主はいたずらに、人を苦しめるお方ではなく、試練と共に脱出の道、あらかじめ、問題の解決を備えておられるお方である。あなたがダビデと共に、主への信頼を告白し、未解決の中でも、賛美と感謝を捧げ、そして、約束のみことばを宣言し続ける時に、必ず、真の勝利が訪れる。
　あなたの問題が、全能の主、全世界を創造された主の御手により、完全に解決するように、祈ろう！！
そして問題は分かち合って祈ってもらおう！！

2018/8/31(金)

詩篇 36 篇

　神様を恐れない人と神様に寄り添い従って生きる人について記されています。神様を恐れない事は普段の生活をより不純なものに変える原因になります。そしてそうなっている事を認めず、甘やかして罪に目を向けない人となります。しかし神様に従う者たちは神様からの祝福を沢山受け取る事が出来ます。沢山の苦労を重ねて修行のように神様に従うのではなく、神様に従う時に「楽しい」(8 節)という祝福があります。この事によって愛と信仰を受け続ける事が出来ます。
　今自分の状況が神様の前でどうなっているか考えよう！もし悔い改める必要があったらそうしよう！また楽しさを受け取っていないなら下さいと祈ろう！今日も神様と共に歩む人生を楽しめるよう祈ろう！

2018/9/1(土)

士師記 12 章

　アモン人との戦いのことで、エフライム人がギデオンの時のように不満をぶつけてきた。ギデオンはその時、争いを避けるために穏やかなことばで対応していたんだ。だけど、今回のエフタは違った。自分の呼びかけに応じないエフライム人を責め、戦いを始めてしまったんだ。
　怒ることは悪いことじゃない。だけど、怒りに任せて争い、人々を殺してしまうことで、イスラエルの中に対立が出て、内部で争いがおこってしまったんだ。一方でその後のさばきつかさの時には外国との戦いはなかったものの、神様の前に悪を行う状態になった。中心に神様がいなければ、その神様を見ていなければ私たち人は簡単に的外れな生き方をしてしまうものなんだ。
　私たちの中心に、いま何があるかな？私たちも正当な怒りを持った時、つい当然のように、その思いのままに行動していないかな？
　どんな時も中心に神様を迎え、神様を見続けよう！

2018/9/2(日)

士師記 13 章

　ここの箇所ではサムソンが生まれるまでの話が書かれています。イスラエルは主の前に繰り返し悪を行ったので、神様はイスラエルをペリシテ人の手に渡されましたが、その中でも神様は救いのみわざをなしてくださろうとしています。
　マノアとその妻は神様のことばを信仰によって受け取り、神様の約束通りにサムソンは生まれました。サムソン以降もペリシテ人はイスラエルにとって強敵でしたが、神様はサムソンによって救いはじめ、その後にダビデによってペリシテ人からの救いを成し遂げられます。
　私たちも同じように救われ、救いの完成がなると神様によって約束されています。私たち一人ひとりが救われて、それで終わりではありません。救いの完成とはどういうことなのでしょうか。静まって、神様が私たちに何を約束してくださっているのかを聞いてみよう。